【16】

氏　名（本　籍）	中村則弘（福井県）
学位の種類	社会学博士
学位記番号	博甲第505号
学位授与年月日	昭和63年3月25日
学位授与の要件	学位規則第5条第1項該当
審査研究科	社会科学研究科
学位論文題目	中国における民衆の連帯と人民公社制度の崩壊 —黒竜江省を事例として—
主　査	筑波大学教授　副田義也
副　査	筑波大学外国人教師　F．ケイ・クォー （カナダ・サイモン・フレーザー大学教授）
副　査	筑波大学教授　駒井洋

論文の要旨

本論文は，中国における人民公社の崩壊過程と民衆の連帯および地域指導者の形態という社会学的要因との関連を，黒竜江省の事例を題材として実証研究したものである。
その目的は地域的自律性の構築の一般的条件の探求にある。

従来，この問題については，貧困からの脱却への民衆の要求が個人生産へと強く指向させ，その結果人民公社の崩壊が生起したという見解が一般的であった。しかしながら，このような現象の基盤として，上記の社会学的要因とりわけ民衆の連帯の形態が決定的であったというのが，本論文の基本的な主張である。すなわち，人民公社の経済的失敗の原因を公社における人間関係に求めたものである。

本論文の大きな特色として，中国残留孤児からの面接聞き取り調査により主要なデータを得ていることがあげられる。この方法は，ロシア亡命者にたいする，A．インケルスのソ連社会研究にその宕想を得たものであり，社会的現象に関するデータがほとんど存在しないか，存在してもそれへの接近がきわめて困難な社会主義国についての研究では，大きな有効性をもつものであると考えられる。

また黒江省の事例研究をおこなった理由は，第一にこのような辺境地域に人民公社制度の矛盾が端的に現れることと，第二に非辺境地域で影響力の大きい同族などの要素が弱いため，かえって地域的自律性構築の諸条件が明確に出現していると考えられることにある。

本論文は問題提起，第一章から第六章，おわりにから構成されているが，それは三つの大きな部

分に大別される。第一の問題提起では，人民公社制度に着目する意味と理論的枠組みの提示がおこなわれている。第二の部分としての第一章では，人民公社制度全般の説明がなされている。第三の部分である第二～第六章およびおわりにおいては，面接調査結果に基づく理論的分析がおこなわれている。

以下，本論文の構成にしたがって，その要旨を要約する。

問題提起の部分では，まず論文の目的が提示されたのちに，民衆の連帯として，物質・利得などの獲得を契機として形成される利害的連帯と友好感情・親密さを契機として形成される互酬的連帯という二つの形態が区別される。また地域指導者については，その自主性と追従性，奉仕性と恣意性という二つの軸を基準に，利権屋型，国家献身型，民衆代表型，土着ボス型という4類型への区分がなされている。

第一章では，人民公社制度の沿革について，伝統的中国農村の概況，この制度の理念と社会主義革命との関連，この制度の変換が検討されている。

第二章では，黒竜江省における人民公社の特質が検討されたのち，調査対象地域の概況が示されている。調査対象地域は，地理的条件としての中心地からの距離と人口規模の相違，開拓村と非開拓村，移住者の多少の三つの基準によって類型化されている。

第三章では，人民公社制度のもとで現実にみられた連帯として，同族的な価値に基づく同族主義的連帯，地域への価値に基づく地域主義的連帯，風化の著しい国家への奉仕・献身の念に基づく国家主義的連帯という三つの類型が区分され，同族主義的連帯は非開拓村，移住者の多さと親和性をもっていることが分析されている。

第四章では，国家と民衆を媒介する地域指導者として，基層幹部がとりあげられている。利権屋型，国家献身型，土着ボス型の地域指導者は，民衆の潜在的不満に結びつく一方，民衆代表型の場合には，国家の命令に対抗して民衆の生活を守る役割を果たしていた。

第五章では，前二章で検討された二つの要因が，人民公社制度の崩壊の基盤をなした状況が検討されている。同族主義的連帯および利権屋型地域指導者がみられる地域では，地域組織の活動が不活発化し，同族の利害対立がうまれた。またこの同族主義的連帯と利権屋型地域指導者の存在については一定の親和関係がみられた。それに対し，地域主義的連帯と民衆代表型指導者の存在についても一定の親和関係がみられるとともに，それが存在する地域の地域組織の活動は活発であり，地域的一体感が存在していた。

第六章では，現実に展開した人民公社制度の崩壊の過程が検討されている。機械化の推進や生産作物の特化，労働意欲の低下の結果，家庭および地域組織の累積負債が深刻化し，それに対処しようとして生産責任制が実施された。個人・家庭単位の生産を承認する生産責任制は，最終的に人民公社制度を崩壊させたが，その進展は地域主義的連帯を持つ地域で早く，同族主義的連帯を持つ地域で遅かった。それは地域主義的連帯を持つ地域が生産責任制を原則とする人民公社制度を見捨てたこと，逆に同族主義的連帯を持つ地域では生産責任制が一定の意味を持ちつづけたことに帰因する。また，利権屋型地域指導者は，人民公社の見直しにもっとも強く抵抗した。

おわりにでは，まず地域主義的連帯は互酬的連帯と，同族主義的連帯は利害的連帯とそれぞれ親和性をもっていることが主張されている。そして最後に，人民公社制度が互酬的連帯としての地域主義的連帯を構築した事例がみられたことは地域的自律性の確立のために大きな意味をもっているという結論が与えられる。

審　査　の　要　旨

戦前の日本の社会学は中国社会に関する豊かな学問的蓄積をもっていたが，戦後においてはこのような伝統は途絶し，現在のところ本格的研究は現れていない。したがって中国についての社会学的研究は，範とすべき先例のない開拓者的な性格を持たざるを得ない。本論文がこのような困難な領域に挑戦し，理論的・実証的な成果をあげたことは高く評価されてよい。

本論文の特色としては，黒竜江省から日本に帰国した残留孤児からの聞き取りを主とし，中国の関係諸機関から刊行された諸出版物を従とするデータ収集の方法があげられる。本論文の執筆者中村氏は，中国語にきわめて堪能であり，中国語による会話能力，中国語で出版された諸資料の読解になんの支障もない。このような中国語能力をいかして収集されたデータは，他に例をみないきわめてオリジナルなものである。さらに中国のような社会主義国で直接データを収集することは，政治的理由によるきわめて大きな困難さをともなうが，残留孤児調査はこの困難を克服できる方法として評価できる。

〔論文要旨〕の項でみたように，本論文は明瞭な問題意識をもちながら，社会学的要因としての連帯および地域指導者の類型化をおこない，それをもって黒竜江省における人民公社制度の崩壊の地域間の相違を説明している。すなわち，互酬的な性格をもつ地域主義的連帯の強い地域でこの制度がまず崩壊したことは，革命後の中国でうみ出された民衆の連帯が国家によりつくられた制度の崩壊の端緒となったことを意味し，この結論は社会学的にみて大きな説得力をもっている。

本論文の弱点を強いて指摘すれば，第一に残留孤児からの聞き取りと刊行資料というデータ収集の方法だけでは，実態の把握がどうしても不充分となること，第二に黒竜江省の事例から得られた知見が中国全体についてはどれほど妥当であるかという問題，第三に調査村落の設定基準のある程度の恣意性などがあげられよう。しかしながら，これらは部分的な弱点にすぎず。本論文のメリットを損なうほどのものではない。

よって著者は社会学博士の学位を受けるに十分な資格を有するものと認める。